

労働の科学

Digest of Science of Labour

2 0 1 9
August
Vol. 74, No. 8



特集

専門図書館を利用する 図書館のちから(2)

見える司書の肖像／須永和之 21世紀の全く新しい概念の大学図書館構想／鹿田正昭
企業図書館員に求められる役割の変化と企業図書館の可能性／菊池健司
命を守る情報を伝えるため防災・災害関係資料を収集・提供し続ける／矢野陽子
病院図書室 患者さんの診療を支える／和気たか子
働く人々を支え、記録と記憶を未来へつなぐ／谷合佳代子
図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」で震災資料を収集・公開／小林真理絵

巻頭言

レファレンス
協同データベース事業の
可能性
飛田由美

連載

共生のための思想と実践
大原総一郎の場合 (一)
兼田麗子

労働の科学



巻頭言

俯瞰 (ふかん)

レファレンス協同データベース事業の可能性 1
飛田 由美 [国立国会図書館関西館]

表紙：「鬼模様B」 深沢 軍治
綿布に油彩，1620×1300mm(F100)，2014年
表紙デザイン：大西 文子



専門図書館を利用する 図書館のちから (2)

見える司書の肖像

..... [國學院大學文学部] 須永 和之 4

企業図書館員に求められる役割の変化と企業図書館の可能性

..... [株式会社日本能率協会総合研究所] 菊池 健司 9

21世紀の全く新しい概念の大学図書館構想

[金沢工業大学ライブラリーセンター]

教育・研究・生涯学習・地域社会の4つのセンター機能を備えた専門図書館として

..... [金沢工業大学] 鹿田 正昭 14

命を守る情報を伝えるため防災・災害関係資料を収集・提供し続ける

[防災専門図書館] [公益社団法人全国市有物件災害共済会] 矢野 陽子 20

病院図書室 患者さんの診療を支える

..... [藤沢市民病院図書室] 和気 たか子 25

働く人々を支え、記録と記憶を未来へつなぐ

[エル・ライブラリー (大阪産業労働資料館)] [公益財団法人大阪社会運動協会] 谷合 佳代子 30

図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」で 震災資料を収集・公開

より活用し、日常とつなぐために

[東北大学附属図書館震災ライブラリー] [東北大学附属図書館] 小林 真理絵 36

Graphic

ディーセント・ワークを目指す職場 8 [見る・活動] (103) ニッポン高度紙工業株式会社	口絵
---	----

Series

共生のための思想と実践 大原總一郎の場合(1)	兼田 麗子 40
労研アーカイブを読む (44) ホランドによる6つの職業興味領域	椎名 和仁 44
凡夫の安全衛生記 (32) 「あるべき姿を確認する」職場安全衛生管理評価制度	福成 雄三 48
産業保健の仕事に携わって (13) エピソード(2)	熊谷 信二 50

Column

2019年日韓参加型安全衛生改善活動トレーニング (PAOT) 参加型改善の国際研修“日韓PAOT”で学んだこと	坪沼 将太郎, 杉浦 豪 56
BOOKS 『古から今に伝わる日本の文様』 多くの思いの込められた意匠と言葉	岸田 幸弥 59
労働科学のページ	61
次号予定・編集雑記	64



俯瞰 ぶんかん

レファレンス協同データベース事業の可能性

飛田 由美

レファレンスサービスは、図書館等の職員が資料を使って利用者の質問に答えたり、調べものや資料・情報探索等のサポートをするサービスのことである。国立国会図書館は、全国の図書館員がもつ調べもののノウハウを集めて共有し、日々のレファレンスサービスに役立てたいという思いから、2002年に「実験事業」としてレファレンス協同データベース（以下、レファ協）の構築を始め、2005年に本格事業化してデータベースを一般公開した。

レファ協事業は、同事業に参加している全国の図書館（公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館等）の日々のレファレンス事例等を蓄積してデータベースを構築し、そのデータをインターネットを通じて提供する事業である。2019年6月末現在、参加館数815館、登録されているデータは約22万8000件となり、館数、データ数ともに年々順調に増加している。約12万件のデータは一般公開されているため、図書館界だけでなく、社会で広く活用されている。

レファ協にはレファレンス事例のほか、調べ方マニュアル、特別コレクション、参加館プロフィールの4種類のデータが収録されている。「レファレンス事例」は参加館で行われたレファレンスサービスの記録で「質問」や「回答」だけでな

く、調査の過程を記録した「回答プロセス」や回答の根拠となった「参考資料」などの情報を記録し、調査の過程を確認できるようにになっている。「質問」と「回答」をつなぐ調査の過程を記載することにより、調べものを担当した図書館員がどのような情報源や探索方法を使って回答を導き出しているのかを確かめることができ、個々の図書館員のもつ調査のノウハウやコツなどを共有できるようになっている。また、多種多様な質問や調べ方が登録されており、調査研究から生活上の疑問や困りごとまで、ヒントとなる情報を得ることもできる。

レファ協の使い方は、調べたいテーマに関連したキーワード等を入力して情報を探すことが一般的であるが、最近ではデータ数が増えてきたことで、さまざまな切り口から有用な情報を引き出す使い方が可能になってきた。例えば、気になる本やデータベースの名称でレファ協を検索すれば、それを活用したレファレンス事例を確認することができる。どのような場面で役立つ資料なのかを知ることができる。実際に活用されたレファレンス事例を確認することにより、書籍販売サイトのレビューとは一味違った情報を入手することができる。

従来、レファレンスサービスの記録はそれぞれの図書館等でバラバラに蓄積さ



とびたゆみ
国立国会図書館関西館 図書館協力課長

れていたが、レファ協に記録を蓄積・共有し、参加館数も増えていったことで、さまざまな効果を生んでいる。レファ協には登録データについて参加館同士が意見や情報を交換できるコメント機能があることから、その機能を使ってレファレンス事例を見た参加館から情報が寄せられ、未解決のレファレンスが解決できたり、回答が充実するというケースもあり、つながることのメリットを感じることができると。また、インターネット公開によって知名度が上がり、広く参照されるようになったことも、登録を後押ししていると考えられる。

2017年には、当館と参加館の協同による活動が評価され、レファ協事業とその参加館及び協力者が「Library of the Year 2017」ライブラリアンシップ賞・レファレンスの集積・可視化・公共財化」を受賞した。今後もレファ協事業を推進し、社会に役立つものとしていきたい。